

2人に1人ががんにかかる時代  
ワクチン接種で予防できるがんがあります

# 子宮頸がんワクチン接種を 受けましょう



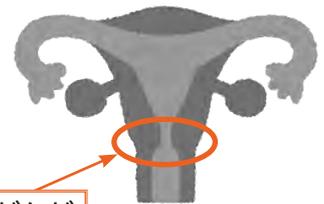
▷問い合わせ 健康づくり係  
(☎223-3533)

## 子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口（頸部）にできるがんです。20歳代から増え始め、30～40歳代で急激に増加します。

子宮頸がんの発症の原因はヒトパピローマウイルス（HPV）に感染することです。主に、性行為で感染し、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。日本では、毎年、約1万1000人の女性が発症し、さらに、約2900人の女性が亡くなっています。

子宮頸がんの発症を予防するためには、HPVワクチン接種を受けることが大切です。



子宮頸がんが  
発症する部分

## HPVワクチンの効果

子宮頸がんの原因となるウイルスの感染を50～70%防ぎ、子宮頸がんを予防します。



## HPVワクチンの副反応

多くの人に起こる症状	接種部位の痛み、腫れ、赤み、疲労感、筋肉や関節の痛み、頭痛
そのほかの症状	発熱、じんましん、全身の脱力感、めまい、意識の消失

このほかにも、接種者の1%未満の確率で、重いアレルギー症状や、手足の力が入りにくいといった神経系の症状が起こることがあります。

## HPVワクチン定期接種

対象	小学6年生～高校1年生相当の女子
定期接種の機会を逃した人への接種（キャッチアップ接種） ★平成9年4月2日 ～ 18年4月1日に生まれた女性	HPVワクチンの定期接種は、平成25年度から開始されましたが、接種後に多くの副反応が報告されたため、すぐに定期接種の案内を中止しました。 その後、国による安全性の検証が行われ、接種の有効性が副反応のリスクを上回ることが認められたことから、令和4年度より、定期接種の案内を再開することとなりました。 定期接種の案内を中止していた平成25年度から令和3年度にかけて、定期接種の機会を逃した人は、4年度から6年度までの3年間に限り、HPVワクチンを無料で接種することができます。対象者には6月下旬に案内ハガキを郵送していますので確認してください。
費用	無料
持っていくもの	●母子健康手帳 ●本人確認ができる書類（マイナンバーカード、保険証など）

## 北九州いのちの電話 ボランティア電話相談員募集

「いのちの電話」は、さまざまな悩みや不安・危機に直面しながら、身近に相談相手がなく、絶望し、生きる力を失いかけてようとしている人々に、訓練を受けたボランティア相談員が電話をとおして、共に考え、その人自身が生きていくことを支援していくボランティア団体です。

▷養成期間 10月8日(日)～令和6年2月(年末年始は休み)

▷ところ 福岡県立北九州勤労青少年文化センター(小倉北区井堀北九州パレス)

▷内容【講座】10月8日～令和5年3月25日(毎週土曜日)・午後2時～4時30分(一部午後5時まで)

【実習】5年2月まで

▷受講料 3万円(テキスト代と一泊研修費用を含む)

▷募集定員 30人

▷応募資格 養成講座に参加し認定を受け、相談員としてボランティア活動ができる20～68歳の人

▷問い合わせ 社会福祉法人 北九州いのちの電話事務局(☎652-6628、ファクス651-6595)



## 養育里親を募集

福岡県里親支援機関「リンク」は福岡県の委託事業として宗像児童相談所管轄で活動しています。さまざまな事情により、生まれた家庭で生活できない子どもたちがいます。里親養育包括支援機関「リンク」は、そのような子どもたちが安心して安全に、未来に希望をもって生活できるよう、愛情深く子どもの育ちに寄り添ってくれる「養育里親」を募集しています。

「里親って何だろう」という質問からでも構いません。気軽に問い合わせてください。

▷問い合わせ 福岡県里親支援機関リンク(☎282-0001)



## 福岡県公衆衛生医師採用試験

福岡県保健福祉環境事務所などで保健・医療・介護施策の企画立案に携わる医師を募集します。

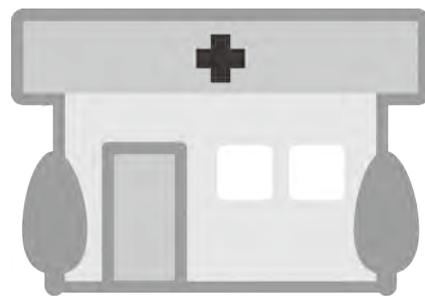
▷採用予定数 6人

▷選考方法 面接試験、小論文評定など

▷応募期間 随時

※業務内容、応募要件、採用時期、申込方法など詳しくは問い合わせてください。

▷問い合わせ 福岡県保健医療介護総務課(☎(092)643-3237)



## 接種できる医療機関

★必ず、事前に予約をしてください。

### 【町内の医療機関】

●須子医院

☎223-0126

●花美坂クリニック

☎223-2500

### 【県内の医療機関】

●福岡県予防接種広域化実施医療機関

※福岡県予防接種広域化実施医療機関以外で接種する場合は、予防接種依頼書が必要です。詳しくは健康づくり係へ問い合わせてください。

## 子宮頸がん検診

HPVワクチン接種をしたら、全ての子宮頸がんを防げる、というわけではありません。

20歳になったら、2年に1回は必ず子宮頸がん検診を受けましょう。

